

# テイセラ／オルテリウス《日本図》地名一覧

No	記載表記	地名(よみ)〔訳〕	都道府県・地域(場所)	発音・表記	その他
本州					
1	IAPONIA.	日本	本州	・“i”は、古典ラテン語において子音“y”[j]の機能を持つことがある。	ラテン語で「日本」の意。原拠とした図に「本州」の名称が無く、「日本」を表す“IAPONIA”をもって本州を表したと考えられる。
2	Deva	出羽(でわ)	山形県	“w”を“v”で代用。当時のラテン語において、“v”は母音“u”や、半母音“w”と同じ発音をし、代わりに使われることがあった。	
3	Villoxu	奥州(おうしゅう)	旧陸奥国(青森県・岩手県・宮城県・秋田県・福島県)	語頭の「オ」を“v”と“ll”の組み合わせで綴る。	
4	Ximoccuqe	下野(しもつけ)	栃木県	“cc”で「ツ」音を表す(元来はç)。	
5	Fitachi	常陸(ひたち)	茨城県	語頭の“H”は発音しないため、“F”が用いられている。	
6	Musaxi	武蔵(むさし)	東京都・埼玉県		
7	Simotusa	下総(しもふさ/しもうさ)	千葉県・茨城県	“f”を“t”に誤写したか。	
8	Cansusa	上総(かずさ)	千葉県	・“s”の前に母音があり、ヨーロッパ人が鼻音化しているように聞き取ったため“n”が入っている。 ・ラテン語において「カ行」を表す場合、“c”を使うことが多い。	
9	Ava	安房(あわ)	千葉県	“w”を“v”で代用。当時のラテン語において、“v”は母音“u”や、半母音“w”と同じ発音をし、代わりに使われることがあった。	
10	Hiechigo	越後(えちご)	新潟県	語頭の“H”は無音化。	
11	Rinano	信濃(しなの)	長野県	“S”を“R”に誤写したか。	
12	Cay	甲斐(かい)	山梨県	・母音“i”は発音の違いによって“y”で表現されることがあった(日本語で表す場合はどちらも「イ」の発音となる)。 ・ラテン語において「カ行」を表す場合、“c”を使うことが多い。	
13	Segemy	相模(さがみ)	神奈川県	・誤写か。 ・母音“i”は発音の違いによって“y”で表現されることがあった(日本語で表す場合はどちらも「イ」の発音となる)。	
14	Mino	美濃(みの)	岐阜県		
15	Hizu	伊豆(いず)	静岡県	語頭の“H”は無音化。	
16	Surunga	駿河(するが)	静岡県	日本語では“b”“d”“g”の前に母音がある場合は鼻音化するため、ラテン語で綴る際に“n”が入っている。	
17	Ioromi	遠江(とおとうみ)	静岡県	“Totomi”の誤写か。	
18	Vlloari	尾張(おわり)	愛知県	語頭の「オ」を“v”と“ll”の組み合わせで綴る。	
19	Hixe	伊勢(いせ)	三重県	語頭の“H”は無音化。	
20	Hinga	伊賀(いが)	三重県	・語頭の“H”は無音化。 ・日本語では“b”“d”“g”の前に母音がある場合は鼻音化するため、ラテン語で綴る際に“n”が入っている。	

21	Finda	飛騨(ひだ)	岐阜県	・語頭の“H”は発音しないため、“F”が用いられている。 ・日本語では“b”“d”“g”の前に母音がある場合は鼻音化するため、ラテン語で綴る際に“n”が入っている。	
22	Vlluomy	近江(おうみ)	滋賀県	・母音“i”は発音の違いによって“y”で表現されることがあった(日本語で表す場合はどちらも「イ」の発音となる)。 ・語頭の「オ」を“v”と“ll”の組み合わせで綴る。	
23	Hietchu	越中(えっちゅう)	富山県	語頭の“H”は無音化。	
24	Novi	能登(のと)	石川県	誤記か。	
25	Canga	加賀(かが)	石川県	・日本語では“b”“d”“g”の前に母音がある場合は鼻音化するため、ラテン語で綴る際に間に“n”が入っている。 ・ラテン語において「カ行」を表す場合、“c”を使う場合が多い。	
26	Hiechigen	越前(えちぜん)	福井県	・語頭の“H”は無音化。 ・ラテン語において“g”は母音“i”“e”“y”の前では軟音化し「ヂイ」「ヂェ」「ヂユ」のような音[dʒ](英語における“J”のような音)になる場合がある。	
27	MEACO	都(京都・みやこ)	京都府	ラテン語において「カ行」を表す場合、“c”を使う場合が多い。	
28	Xima	志摩(しま)	三重県		
29	Cavachi	河内(かわち)	大阪府	・“w”を“v”で代用。当時のラテン語において、“v”は母音“u”や、半母音“w”と同じ発音をし、代わりに使われることがあった。 ・ラテン語において「カ行」を表す場合、“c”を使う場合が多い。	
30	Hiamato	大和(やまと)	奈良県	・語頭の“H”は無音化。 ・“i”は、古典ラテン語において子音“y”[j]の機能を持つことがある。	
31	Hizumi	和泉(いずみ)	大阪府	語頭の“H”は無音化。	
32	Quinocuni	紀ノ国(きのくに)	和歌山県	ラテン語において「カ行」を表す場合、“qu”を使う場合がある。	
33	Sacay	堺(さかい)	大阪(堺市)	・母音“i”は発音の違いによって“y”で表現されることがあった(日本語で表す場合はどちらも「イ」の発音となる)。 ・ラテン語において「カ行」を表す場合、“c”を使う場合が多い。	
34	Ecunocuny	摂津国/津乃国(せつつのくに/つのくに)	兵庫県・大阪府	・母音“i”は発音の違いによって“y”で表現されることがあった(日本語で表す場合はどちらも「イ」の発音となる)。 ・“Ccunocuny”の誤写か(“cc”で「ツ」音を表す(元来はç))。 ・ラテン語において「カ行」を表す場合、“c”を使う場合が多い。	※日本語で表す場合はどちらも「イ」の発音となる。
35	Farima	播磨(はりま)	兵庫県	語頭の“H”は発音しないため、“F”が用いられている。	
36	Vacasa	若狭(わかさ)	福井県	・“w”を“v”で代用。当時のラテン語において、“v”は母音“u”や、半母音“w”と同じ発音をし、代わりに使われることがあった。 ・ラテン語において「カ行」を表す場合、“c”を使う場合が多い。	

37	Famat	未詳	京都府力、若狭と丹後の間辺り		
38	Tamba	丹波(たんば)	兵庫県		
39	Tango	丹後(たんご)	京都府		
40	Tagima	但馬(たじま)	兵庫県	ラテン語において“g”は母音“i”“e”“y”の前では軟音化し「ヂイ」「ヂェ」「ヂユ」のような音[dʒ](英語における“J”のような音)になる場合がある。	
41	Mimasaca	美作(みまさか)	岡山県	ラテン語において「力行」を表す場合、“c”を使う場合が多い。	
42	Hitchu	備中(びっちゅう)	岡山県	語頭の“H”は無音化。	
43	Vigo	備後(びんご)	広島県		
44	Inaba	因幡(いなば)	鳥取県		
45	Foquy	伯耆(ほうき)	鳥取県	・語頭の“H”は発音しないため、“F”が用いられている。 ・母音“i”は発音の違いによって“y”で表現されることがあった(日本語で表す場合はどちらも「イ」の発音となる)。 ・ラテン語において「力行」を表す場合、“qu”を使う場合がある。	
	Aquy	安芸(あき)	広島県	・母音“i”は発音の違いによって“y”で表現されることがあった(日本語で表す場合はどちらも「イ」の発音となる)。 ・ラテン語において「力行」を表す場合、“qu”を使う場合がある。	
47	Suro	周防(すおう)	山口県	誤写か。	
48	Hizumi	出雲(いずも)	島根県	・“Hizumo”の誤写か。 ・語頭の“H”は無音化。	
49	Argenti fodinæ	石見銀山(いわみぎんざん) 〔銀鉱山〕	島根県	中世ヨーロッパにおけるラテン語の“ae”は“æ”と合字で表記されることがあった。	ラテン語で「銀鉱山」を意味する“Argenti fodinae”と同義。
50	Hivami	石見(いわみ)	島根県	・“w”を“v”で代用。当時のラテン語において、“v”は母音“u”や、半母音“w”と同じ発音をし、代わりに使われることがあった。 ・語頭の“H”は無音化。	
51	Nagato	長門(ながと)	山口県		
本州周辺島					
52	Sando	佐渡(さど)	新潟県	・日本語では“b”“d”“g”の前に母音がある場合は鼻音化するため、ラテン語で綴る際に間に“n”が入っている。	・“Sisime”(No.52)と位置を取り違えた可能性有。
53	Sisime	止々嶋力(とどしま力)	山形県力(現飛島力)		“Sando”(No.51)と位置を取り違えた可能性有。
54	Bacasa	若狭力(わかさ力)	若狭湾沖※存在しない		
55	Vuoqui	隠岐(おき)	島根県	ラテン語において「力行」を表す場合、“qu”を使う場合がある。	
56	Nasima	松島(まつしま)	宮城県		
57	Toy(lha dos ladrones)	東夷/東嶋(とうい) 〔泥棒島〕	宮城県力※存在しない	母音“i”は発音の違いによって“y”で表現されることがあった(日本語で表す場合はどちらも「イ」の発音となる)。	「泥棒島」の意(西葡混在)。“Ilha dos~”はポルトガル語で「~の島」を、“ladrones”はスペイン語で「泥棒たち」を意味する。
58	Gisima	伊々島(いいしま)	房総半島沖力※存在しない		

59	Iasima	八嶋/大島(やしま/おおしま)	東京都	“i”は、古典ラテン語において子音“y”[j]の機能を持つことがある。	
60	Ensuima	伊豆島(いずしま)	東京都		
61	Fechi Ionoxima	八丈島(はちじょうじま)	東京都	語頭の“H”は発音しないため、“F”が用いられている。	
62	Mitsuquimi	見附島(みつしま)	静岡県カ※存在しない	ラテン語において「力行」を表す場合、“qu”を使う場合がある。	
63	C. dos Cestos	[セストス岬]/潮岬(しおのみさき)	和歌山県カ		“Cabo dos Cestos”の略。“Cabo”はスペイン語、ポルトガル語で「岬」を、“Cesto”は「籠」を意味する。直訳では「籠の岬」だが、この場合は「セストス」という名称として使用されたか。
64	Avagi	淡路(あわじ)	兵庫県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“w”を“v”で代用。当時のラテン語において、“v”は母音“u”や、半母音“w”と同じ発音をし、代わりに使われることがあった。</li> <li>・ラテン語において“g”は母音“i”“e”“y”の前では軟音化し「ヂィ」「ヂェ」「ヂュ」のような音[dʒ](英語における“J”のような音)になる場合がある。</li> </ul>	
65	Itoqulchima	巖島(いつくしま)	広島県	ラテン語において「力行」を表す場合、“qu”を使う場合がある。	
四国					
66	TONSA.	土佐(とさ)	四国	“s”の前に母音があり、ヨーロッパ人が鼻音化しているように聞き取ったため“n”が入っている。	原拠とした図に「四国」の名称が無く、「土佐」の名を借り「四国」を表したと考えられる。
67	Ava	阿波(あわ)	徳島県	“w”を“v”で代用。当時のラテン語において、“v”は母音“u”や、半母音“w”と同じ発音をし、代わりに使われることがあった。	
68	Tonsa	土佐(とさ)	高知県	・“s”の前に母音があり、ヨーロッパ人が鼻音化しているように聞き取ったため“n”が入っている。	
69	Samuqui	讃岐(さぬき)	香川県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“Sanuqui”の誤写か。</li> <li>・ラテン語において「力行」を表す場合、“qu”を使う場合がある。</li> </ul>	
70	Hyo	伊予(いよ)	愛媛県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“Hiyo”の誤記か。</li> <li>・語頭の“H”は無音化。</li> </ul>	
九州					
71	BVNGO.	豊後(ぶんご)	九州	“u”を“v”で代用。当時のラテン語において、“v”は母音“u”や、半母音“w”と同じ発音をし、代わりに使われることがあった。	原拠とした図に「九州」の名称が無く、「豊後」の名を借り「九州」を表したと考えられる。
72	Bugen	豊前(ぶぜん)	福岡県・大分県	ラテン語において“g”は母音“i”“e”“y”の前では軟音化し「ヂィ」「ヂェ」「ヂュ」のような音[dʒ](英語における“J”のような音)になる場合がある。	
73	Figen	肥前(ひぜん)	佐賀県・長崎県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語頭の“H”は発音しないため、“F”が用いられている。</li> <li>・ラテン語において“g”は母音“i”“e”“y”の前では軟音化し「ヂィ」「ヂェ」「ヂュ」のような音[dʒ](英語における“J”のような音)になる場合がある。</li> </ul>	

74	Checugen	筑前(ちくぜん)	福岡県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラテン語において“g”は母音“i”“e”“y”の前では軟音化し「ヂイ」「ヂェ」「ヂユ」のような音[dʒ](英語における“J”のような音)になる場合がある。</li> <li>・ラテン語において「カ行」を表す場合、“c”を使う場合が多い。</li> </ul>
75	Bungo	豊後(ぶんご)	大分県	
76	Figi	日出(ひじ)	大分県(速見郡日出町)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語頭の“H”は発音しないため、“F”が用いられている。</li> <li>・ラテン語において“g”は母音“i”“e”“y”の前では軟音化し「ヂイ」「ヂェ」「ヂユ」のような音[dʒ](英語における“J”のような音)になる場合がある。</li> </ul>
77	Fumay	府内(ふない)	大分県(大分市府内町)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語頭の“H”は発音しないため、“F”が用いられている。</li> <li>・母音“i”は発音の違いによって“y”で表現されることがあった(日本語で表す場合はどちらも「イ」の発音となる)。</li> </ul>
78	Chicugo	筑後(ちくご)	福岡県	ラテン語において「カ行」を表す場合、“c”を使う場合が多い。
79	Xanganozeque	佐賀関(さかのせき)	大分県(大分市佐賀関)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語では“b”“d”“g”の前に母音がある場合は鼻音化するため、ラテン語で綴る際に間に“n”が入っている。</li> <li>・ラテン語において「カ行」を表す場合、“qu”を使う場合がある。</li> </ul>
80	Finga	肥後(ひご)	熊本県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語頭の“H”は発音しないため、“F”が用いられている。</li> <li>・日本語では“b”“d”“g”の前に母音がある場合は鼻音化するため、ラテン語で綴る際に間に“n”が入っている。</li> </ul>
81	Vsuqi	臼杵(うすき)	大分県(臼杵市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“u”を“v”で代用。当時のラテン語において、“v”は母音“u”や、半母音“w”と同じ発音をし、代わりに使われることがあった。</li> <li>・ラテン語において「カ行」を表す場合、“qu”を使う場合がある。</li> </ul>
82	Mino	美々津(みみつ)	宮崎県(日向市美々津町)	
83	Fango	日向(ひゅうが)	宮崎県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語頭の“H”は発音しないため、“F”が用いられている。</li> <li>・日本語では“b”“d”“g”の前に母音がある場合は鼻音化するため、ラテン語で綴る際に間に“n”が入っている。</li> </ul>
84	Cangaxuma	鹿児島(かごしま)	鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語では“b”“d”“g”の前に母音がある場合は鼻音化するため、ラテン語で綴る際に間に“n”が入っている。</li> <li>・ラテン語において「カ行」を表す場合、“c”を使う場合が多い。</li> </ul>
85	Osumi	大隅(おおすみ)	鹿児島県	
86	Saccuma	薩摩(さつま)	鹿児島県	“cc”で「ツ」音を表す(元来はç)。
87	Tenora	外浦(とのうら)	宮崎県(日南市南郷町外浦)	
88	Minato	湊(みなと)	鹿児島県(指宿市湊)	

89	Hiamangava	山川(やまかわ)	鹿児島県(指宿市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“w”を“v”で代用。当時のラテン語において、“v”は母音“u”や、半母音“w”と同じ発音をし、代わりに使われることがあった。</li> <li>・語頭の“H”は無音化。</li> <li>・“i”は、古典ラテン語において子音“y”[j]の機能を持つことがある。</li> <li>・日本語では“b”“d”“g”の前に母音がある場合は鼻音化するため、ラテン語で綴る際に間に“n”が入っている。</li> </ul>	
90	Tomarum	泊津(とまりづ)	鹿児島県(南さつま市坊津町泊)		
九州周辺離島・湊					
91	Ceuxima	対馬(つしま)	長崎県(対馬市)	“Ccuxima”の誤写か(“cc”で「ツ」音を表す(元来はç))。	
92	Firando	平戸(ひらど)	長崎県(平戸市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語頭の“H”は発音しないため、“F”が用いられている。</li> <li>・日本語では“b”“d”“g”の前に母音がある場合は鼻音化するため、ラテン語で綴る際に間に“n”が入っている。</li> </ul>	
93	Duco	宇久島(うくしま)	長崎県(五島列島)	“huco”や“hucu”の誤写か。	少なくとも18c頃までは使われていた名称と考えられる。
94	Xiqui	志岐(しき)	熊本県(天草郡苓北町)	ラテン語において「力行」を表す場合、“qu”を使う場合がある。	
95	Oye	大矢野力(おおやの力)	熊本県(上天草市大矢野町力)		
96	P. Bom	未詳	長崎県(五島列島力)		
97	Ogoto	五島(ごとう)	長崎県(五島列島)		
98	Qvivo	小浦(こうら)	長崎県(五島列島福江島)	ラテン語において「力行」を表す場合、“qu”を使う場合がある。	
99	Meaxuma	女島(めしま)	長崎県(五島市男女群島)		
100	Cutama	久玉(くたま)	熊本県(天草市久玉町)	ラテン語において「力行」を表す場合、“c”を使う場合が多い。	
101	Conzura	上津浦(こうつうら)	熊本県(天草市有明町上津浦)	ラテン語において「力行」を表す場合、“c”を使う場合が多い。	
102	Nangayxuma	長島(ながしま)	鹿児島県(出水郡長島町)	日本語では“b”“d”“g”の前に母音がある場合は鼻音化するため、ラテン語で綴る際に間に“n”が入っている。	
103	S. Clala	宇治群島(うじぐんとう)[聖クララ]	鹿児島県(南さつま市)		ラテン語で「聖クララ」を表す“Santa Clala”の略。
104	Ciambo	口永良部島(くちのえらぶじま)	鹿児島県(大隅諸島)	“erambo”の誤写か。	
105	Tanaxuma	種子島(たねがしま)	鹿児島県(大隅諸島)		
106	Isla do Fogo	硫黄島(いおうじま)[火の島]	鹿児島県(鹿児島郡三島村)		「火の島」の意(西葡混在)。“~do Fogo”はポルトガル語で「火の~」を、“Isla”はスペイン語で「島」を意味する。
107	Lequeo grande	大琉球(だいいりゅうきゅう)	沖縄県(沖縄本島)	ラテン語において「力行」を表す場合、“qu”を使う場合がある。	「琉球」を示す“Lequeo”と、ラテン語、ポルトガル語、スペイン語共通で「大きい」の意を持つ“Grande”を合わせた言葉。